

## 令和7年度佐世保市特別職報酬等審議会（第2回）

【開催日時】 令和7年8月21日（木） 13:30～:14:20

【開催場所】 市役所4階 第二委員会室

【出席委員】 8名/10名

【議事要旨】

### 1. 開会

### 2. 事務局説明

県内の賃上げ状況、報酬額等改定シミュレーションなど説明

### 3. 審議

（会 長） それぞれ皆様からご質問なりご意見なりをいただければ。G委員、H委員、I委員は前回欠席だったので、前回の内容を含めてご意見があればお話いただきたい。

（G委員） 賃上げについては仕事があって賃上げが行われているのはいいが、人を離さないように、会社を守るために賃上げしているところも多々あると思っている。また、価格転嫁の問題もあり、それが進まないと大手いわゆる元請けだけ賃金が上がって、下請けで働いている人たちの賃金は上がらない、仕事量は増えるという状況かと思う。最低賃金で国のベースが64円と出て、長崎でも審議会が行われた。そこで労働者側は78円を求めたが、使用者側は38円ということで、ここで40円ほど差がある。例年10月に最低賃金が改定されるが、今年は11月、12月にずれ込むのではないかということも懸念されている。

賃金は上がって市としても税収は上がっているのではないかと思うが、議員のなり手が少ないことを考えると、ある程度増加すべきではないかとは考えている。

（H委員） 物価の上昇を考えた時に、報酬は上げざるを得ないかと思う。生活自体が大変苦しくなっていて、それは特別職であっても同じ。ただ上げ率が妥当かというのが、今のところ比較するものがないので何とも言えない。

G委員から最低賃金の話もあったが、国の基準と長崎県の基準ではだいぶ差がある。なので、上げることの審議というよりも、どれくらいの%で上げるべきかの判断がつかないところ。昨年度、議員を上げて市長・副市長は次回検討ということだったが、もう少し慎重に審議して市民が納得できる上げ方にしないといけないと思う。

（I委員） 最低賃金も大幅に上がるし、どの職業も人が足りないので、基本的に上げる方向でいっていると思う。今、話があったように、上げ幅をどうするかということで、下げるという意見はないと思う。ただ、上げ幅の基準、中核市の中で予算額とか税収や赤字の程度、財政にどの程度の余裕があるのか、財政の規模など、そういったところで見えていくしかないと思うので、1～2.5%の幅の中で考えていくのが妥当だと思う。

（会 長） 他の委員の皆さんはいかがか。

（A委員） 昨年の議員の賃上げは何年ぶりだったか。あと、市長・副市長は何年据え置きとな

っているのか。

(事務局) 昨年度より前に額を改正したのは平成16年4月で、この時は引き下げ改定であった。当時は厳しい経済状況で、職員もマイナス改定が続いており、その後は20年ほど横ばいで来ていたという状況である。

(A委員) 私も引き上げが妥当と思っているが、率が20年上がってなかったところで、今回の率だけを根拠にして上げるのは違うと思っている。そのあたりは少し整理をしないといけない。あとは、市民に理解いただけるものであること。

次回教えていただきたいのだが、小規模な自治体を除き、一定の規模の自治体で、特色のある特別職の報酬制度がある市を教えていただきたい。これは1つのアイデアとして、業績連動報酬、成果報酬というのを、特に市長の給料に取り入れるのも1つの考えだと思っている。成果が上がれば報酬も上がる、公約が守られなければ下がってしまう、そういったものを入れるというのも1つの考えだと思うので、そういった取組みをされている自治体があれば紹介していただきたい。ただ、これは今回というよりも長期的な話だと思っている。

(D委員) 私の周りにもいろんな業種がいるが、去年は業績に関係なく上げざるを得なかったという状況だったが、今年もすごく上がっているという話だった。私も一番大事なものは、市の財政状況、会社で言えば売上や経常利益だが、ただ、そういう面ばかりだと厳しいのかなとも思う。市も財政力指数や経常収支比率などは基本的にはあまり変わっていないことからしたら、今回4つ案があるが、やはり下げるわけにはいかないかと感覚的には思う。他の中核市の状況も出てくると思うのでそれも検討しながら、案②(0.96%増)でいくのか案④(据え置き)で据え置きか。案③(同人口規模団体の平均)はないかとは思う。

(C委員) 私もある程度は上げることでいいとは思いますが、案②(0.96%増)だと、順位づけの理由でやっていくとなると順位がどんどん上がって行ってしまうのではないかと思うので、ある程度市の状況も見ながらやらないといけないとは思っている。また人事院勧告が出たからこれでやります、というやり方は難しいのではないかと思う。

(E委員) 私も下げることに反対で、クルーズ船も来年は今年以上に来るということなので、市にもある程度メリットがあることを考えると、今のところ案②(0.96%増)だと思う。ただ議員は退職手当がないので、それを考えると議員だけ案①(2.62%増)にして大ナタを振るってあげないと、議員を続けるにも家庭があり、専業の方は厳しいのではないかと思う。なので、上げる方向でかつ議員だけは額をもっと上げてあげたいと思う。

(会長) 今日は事務局から4つの案が示されたが、どれを選んでも一長一短あると思う。皆さんの意見を聞いて、今のトレンドを考えると上げる方向性というのは確認できたと思う。他の案を考えるのもありだと思うが、個人的には概ねこの4つに絞られると思っている。もし他に案があれば提示していただければと思うのと、案③(同人口規模の平均)はマイナス(改定になる役職)があるのでこれは外し、つまり案①(2.62%増)、②(0.96%増)、④(据え置き)に絞ってというのはいかがか。

そのうえで、上げ幅の理由付けと財政状況との関係になってくる。案①（2.62%増）は一番持ち出しが多く、案②（0.96%増）はそれよりは小さくはなるが増額というトレンドになる。それで案④（据え置き）はそのままとなるが、他の中核市との比較では整合性は取れていると思う。このあたりでいかがか。

（事務局） 参考として、事務局案の追加説明をさせていただくが、案①（2.62%増）を実施すると年間約1千万円の支出増、案②（0.96%増）だと案①の約3分の1程度で約400万円の増となる。もし①と②の案をミックスすれば、その間の中で動くことになる。

あと、財政状況の話もあったが、行政というのはたくさん稼いで利益を上げるということではなく、基本的には市民から預かった税金をきちんと効率的に使っていくことになるので、いわゆる赤字・黒字、儲かった・儲からないということでは必ずしもない。また、まさかの時のために備えておく貯金であるとか、中長期的な建物を造る際に発行する市債であるとか、そういったところは計画的に堅実に財政運営できていると思う。ただ、佐世保市の経済状況としてやはり独自財源、稼ぐ力が弱い部分があり、国からの地方交付税に依存している状況ではあるが、先ほど言った増額分を負担できないような財政状況かと言われたら必ずしもそうではないと理解いただければ。

（会長） 1つ質問で、昨年度は市長・副市長は据え置きで議員のみ引き上げとなって、新聞にも載ったが、その後に市民や周りから何か賛否両論のようなものはあったのか。

（事務局） 直接受けられた話は分からないが、私どもの耳に届いているものはない。

（A委員） 議会からの意見は何かあったか。

（事務局） 議会も前回の平成16年引き下げ改定、その後据え置かれていたところで今回上がるということで肯定的な意見だったと思う。ただ実態として、様々な費用負担や若い人に立候補してもらうためにも魅力ある報酬額というのは必要じゃないかという意見はお持ちだとは思っている。

（D委員） ここで議論する話ではないと思うが、議員の退職手当がないというのは前から気になっているが、議員数を減らす案は出てないのか。多いのではないかと思う。

（事務局） 退職金の話もあったが、議員の場合は平成23年6月に議員年金が廃止になっている。なので、市長・副市長と比べると年金制度も退職金もない。物価上昇や賃上げの機運が高まっている中で「もう少し」という思いをお持ちの方も多い。

（E委員） 定数についての話はいかがか。

（事務局） 定数についての議論は常になされている。今回も中間の改選があり、今後の議会内部の課題事項を洗い出されて、議論・検討されるようになっているが、その中に議員定数の議論は含まれている。

（A委員） 月額順位で議員が中核市の中で順位が下の方なのでそこを埋めてあげるという視点はあると思う。

（E委員） 例えば議長を市長と同じ40位くらいまで持っていくと、月額はどうなるか。

（事務局） 案①（2.62%増）で1.5万円上げて42位になるので、あと数千円程度、2万円まで行かないくらいの引き上げで40位くらいに行くのではないか。

（E委員） 思ったより上がらないな。これから退職金の蓄えと保険を自分で掛けるとなると、

なかなか大変かなという思いはする。

(A委員) そうなると、退職手当といった形で話をしないと、月額報酬の枠ではそれを補うというのは難しい。

(事務局) 年金の話で、なかなか実現しないのだが、全国の議長会等では厚生年金への加入をお願いしたいという意見はたくさん出ている。そこは国がなかなか動いてくれないような状況で、難しいところ。

(H委員) 議員の調査研究費や費用弁償はそれぞれが貰いそれぞれの活動に使っている。報酬についてはこの審議会で議論されるが、その2つは自分たちで審議しているかと思う。それらの検討は表に出てきてないと思うので、そこの兼ね合いも含めて、上げてもいいが2年続けて上げていいのかという思いもある。

(E委員) ちなみに県庁はどのような動きなのか。県議会議員には年金などはあるのか。

(事務局) 年金は地方議会議員にはない。廃止になったのは、合併が進んだことで全国の議員の数が激減したことが一番の理由。

(I委員) 400万円から1千万円の間の話なので、あまりに整合性を求めすぎてもしょうがないので、ある程度できるところで数字を見ていくしかないと思う。中核市での順位や財政規模などをベースに見て、20番目の財政規模で50番目の給料だと安いし、逆に1番であれば高いし。そういうのを参考にしていくしかないかと思う。

(事務局) 今日この場ですべて決着付けて答申まで持って行くのは難しいと思うが、方向性として引き上げていくというのがあり、ただ、全員一律引き上げるのではなく、市長・副市長よりも総合的に考えると議員を上げていくという方向性はいかがか。

次の第3回目に向け、事務局には詰めた資料をお願いし、他いくつか宿題もあったので、それらをまとめてもらい、次回の審議という形でいかがか。

(各委員) はい。

(会長) あと要望として、案の中で案③(同人口規模の平均)は削り、逆に昨年度と同じように市長と副市長は据え置き、議員は上げという案を加えてもらえれば比較もしやすい。

次回で何とか決着を見たいと思う。あと今回の議論は報酬のみだったので、次回は退職手当の議論も併せてお願いしたい。

## 8. 閉会

(事務局) 本日のご議論ありがとうございました。次回に向けて整理をして説明させてもらいたいと思う。9月はピース文化祭やツールド九州などのイベントが予定されているので、次回の日程については少し間を空けさせていただきたいと考えている。

(会長) それでは、本日の審議会を終了したいと思います。円滑な会議の進行にご協力いただきましてありがとうございました。

以 上